

子どもの頃、
川は恰好の遊び場でした。
楽しい荒川を、
いつまでも。

林家たい平

みんなの力で荒川を もつと楽しく快適に！



コラム

近代改修を見に行こう

2017年は、
カスリーン台風から70年

地元の有志が刻んだ「水」がうっすらと読み取れる



荒川の上流、秩父生まれのたい平で〜す！

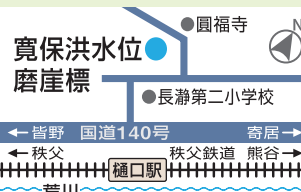
子どもの頃は川でよく遊んだものです。思えば、荒川は今もさまざまに利用されていて、魅力は川幅日本一の広い河川敷です。

その約6割は民地で、大半が農耕地なんですって。ほかにもゴルフ場や公園、運動場などに利用され、スポーツやレクリエーション、自然観察や散歩などを楽しむ人たちが賑わっています。

子ども時代に親しんだ荒川を、もっと楽しく、安全に、これからも利用したい。たくさんの方がさまざまに利用するからこそ、みなさんの「気づかい」が大切です。さあ、秋本番。子どもや高齢者、そして動植物を思いやる心を持って出かけましょう。

寛保の大洪水水位「磨崖標」(長瀬町)

荒川の上流、観光地で知られる長瀬町に「水」の文字を刻んだ岩壁があります。説明板には1742(寛保2)年、旧暦7月に発生した大洪水によって「この付近」帯は、ことごとく水底に没した」と記されています。その水位は、大人が国道140号に立つて手を伸ばしたほるか上方。荒ぶる川が襲いかかるさまじさが伝わってくるようです。



国道140号沿いの長瀬第二小学校の裏手。圓福寺へ向かう坂道の脇にある。説明板が目印



利用者や地域のみなさんの協力が必要です(道満グリーンパーク)

荒川はさまざまに 利用されているんだね!

河川敷のクリーンアップ大作戦 ボランティア活動に参加して!

ごみの不法投棄は犯罪だ。荒川は河川敷が広く、不法投棄は深刻な大問題だ。流域の自治体などを主体にした5つの協議会がボランティアでクリーン活動に取り組んでいる。昨年度は延べ1443人が参加して、約23.5トンもの不法投棄物を撤去した。活動は例年11月、一般の方も参加できる会場もあるので、ぜひご協力ください。



捨てられているのは生活ごみや産廃物、家電製品など。活動の参加方法は事務所のホームページで



堤防の刈草をリサイクル 荒川生まれの堆肥が大人気

この季節(7~10月)は「切返し」の時期。空気の流れを良くして発酵を均にする。完成は1月頃



堤防の定期的な除草は、堤防の状態把握のために欠かせない。大量に発生する刈草は、環境負荷の軽減や有効利用を目的に堆肥化されているんだって緑のリサイクルだね。

堆肥は「荒川緑肥(りよくひ)」と名づけられ、毎年希望者(応募が必要)へ無償提供されている。

昨年度は約千人へ配布され、「よく野菜ができます。他の肥料はいりませんね」などと利用者から声が届くほど大好評だ。

「荒川緑肥」の募集が始まります

堤防の刈草を堆肥にリサイクルした「荒川緑肥(りよくひ)」を無償で配布します。ご希望の方は、必ず「往復はがき」でお申し込みください。詳しい応募方法はウェブで確認を!



詳しくはコチラ